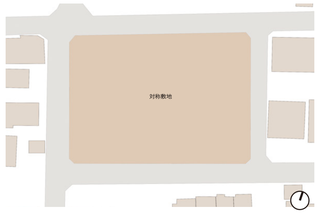
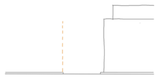
■二つの異なるマワリニワ

敷地の西と東はそれぞれの道路に面しており、その環境の違いが敷地に対して異なる表情をもたらしている。この道路環境と周辺の状況の違いから保育園にある二つの園庭にそれぞれ違う役割を担うことにした。

西側には園に属するマワリニワを設けた。西側は敷地から建物までの道が広く、建物の高さも一般の住宅程度であるため圧迫感は少ない。加えて、車通りも人通りがある環境である。一方の東側には地域に属するマワリニワを設けた。東側は敷地から建物までの道が広く、建物の高さも周囲に比べると高いため圧迫感や閉塞感がある。このことから、車通りが少ないが、それにより地域の人が安心して立ち止まれる環境になっている。同じ外部空間でも、周辺の環境が異なることで地域と保育園の関係性に違いを生むことができる。

西側
建物が低く、道幅が広い
通行が多い
開放的





東側
建物が高く、道幅が狭い
通行が少ない
圧迫感

西側の庭 (保育園に属するマワリニワ)

西側は車通りと人通りがあることに加え、周囲の建物が低めであり道幅も広い。そのため西側は立ち止まって関わるといった直接的な交流ではなく、保育園の横を通る際に園の様子がちらっと見えるような間接的なつながりとした。

西側は、保育園のアプローチ部分でもあるため開口も大きく開いている。そのため道路を歩いていても、マワリニワの雰囲気が開口越しにふっと見え、人々の生活の中に保育園の気配が静かに溶け込む。それは交流というより、遠くからそっと見守るような距離感で、保育園と地域の間にゆるやかな境界をつくっている。

住宅の高さが低く保育園との距離があるため、圧迫感はなく開放的

立ち止まる交流ではなく保育園の横を通る際に、マワリニワをみることができる

西側のマワリニワは保育園のアプローチ部分であるのと同時に保育園に属する庭であり、子どもたちが走り回るなど活発に身体を動かせる庭となっている。

マワリニワ自体は子どもが身体を動かして遊べることを目的としている。そのため植栽などは設けない広場が広がっている

東側の庭 (地域に属するマワリニワ)

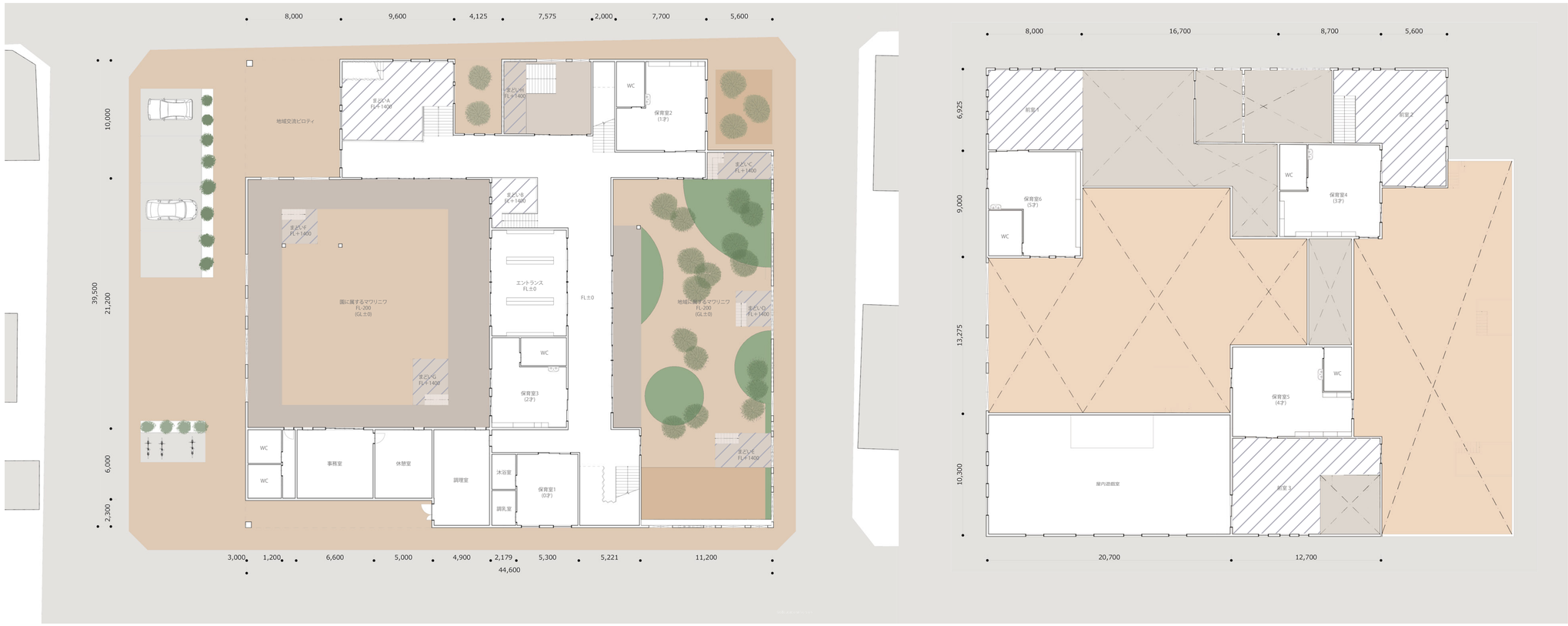
東側は道幅が狭く車通りが少ないため、人が立ち止まりやすい環境である。この落ち着いた街路を生かし、東の庭は地域と園をゆるやかにつなぐ外部空間として計画した。 外構の壁に沿ったまどいのレベルや、視線が抜ける位置にサッシのない開口を設けることで、道を歩く人と園で遊ぶ子どもたちの視線が交差する構成とした。「見る/見られる」という関係以上に、挨拶をしたり手を振り合ったりといった日常の小さな交流が自然に生まれる。日常の移動の中で、ふと立ち止まり子どもたちと交流することで、地域の人にとっても保育園を身近に感じるきっかけとなる。

サッシのない壁を敷地境界に配置することで、圧迫感を和らげる

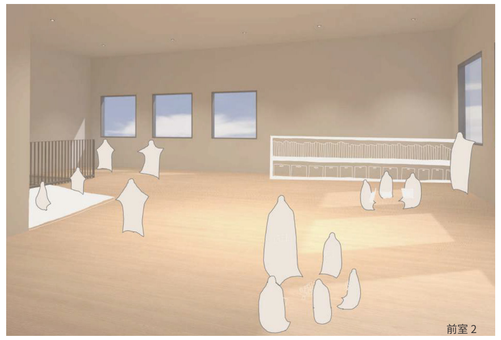
地域の人が立ち止まり、保育園を見ることで子どもたちとの交流につながる。

東側は地域に属する庭であると同時に、子どもたちが自然と触れ合えるような庭となっている。

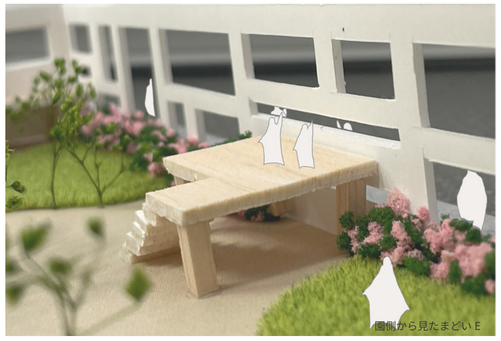
マワリニワは子どもたちが自然と触れ合う場所であり、また地域の人と交流することを目的としている



エントランス横の通路



前室 2



園側から見たまどいE

地域交流ピロティ